

## 日本NGO連携無償資金協力 完了報告書

1. 基本情報	
(1) 案件名	カフエ郡における HIV/エイズ対策事業 (第3期) HIV/AIDS Project in Kafue District
(2) 贈与契約締結日 及び事業期間	・ 贈与契約締結日 : 2015年1月9日 ・ 事業期間 : 2015年1月11日~2016年1月10日 ・ 延長事業期間 : 1ヵ月、2016年2月10日まで
(3) 供与限度額 及び実績 (返還額)	・ 供与限度額 : 602,517米ドル ・ 総支出 : 564,111.56米ドル (返還額 : 39,634.35米ドル) 1. 現地事業実施経費の消化率 93.04%に対し、2. 現地事業後方支援経費の消化率が 102.95%となった。よって、残高 38,405.44米ドルに 2. 現地事業後方支援経費の予算超過分である 1,228.91米ドルを加え、返還予定額は 39,634.35米ドルとなった。
(4) 団体名・連絡先、事業担当者名	(ア) 団体名 : 特定非営利活動法人 難民を助ける会 (イ) 電話 : 03-5423-4511 (ウ) F A X : 03-5423-4450 (エ) E-mail : <a href="mailto:staff@aarjapan.gr.jp">staff@aarjapan.gr.jp</a> 事業担当者名 : 加藤亜季子、山根利江
(5) 事業変更の有無	事業変更承認の有無 : (ア) 申請日 : 2015年12月17日 承認日 : 2015年12月22日 内容 : 事業期間延長申請 (1ヵ月間)

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	<p>マウントマクル、ナンゴングウェ、ムウエンベシの3クリニックの抗レトロウィルス療法 (Antiretroviral Therapy: ART) センターにおいて、CD4 測定器 (ART の治療評価に重要な指標となる血液中の CD4 陽性 T リンパ球数を測定する装置) や救急搬送カート等の資機材の供与を行い、検査結果の待ち時間の短縮や搬送体制の改善を図った。これにより、病状が深刻な患者への治療環境が整った。また3クリニックの ART センターにて、患者台帳と患者情報管理ソフトウェア (スマートケア) を併用することにより、ART 患者情報管理システムの改善を行った。同時に、継続的な通院を促すため、服薬支援ボランティアがクリニック内での服薬指導カウンセリングや家庭訪問活動を行い、患者およびその親近者に対するワークショップを通じて、患者やその周囲の人々の服薬遵守に対する意識を高めた。さらに、各服薬支援ボランティアが収入創出活動を開始し、今後活動を継続するのに必要最低限の資金を入手できるようになるとともに、各クリニックが服薬支援ボランティアの監督体制を確立したことで、持続的な服薬支援体制が整えた。また、ムウエンベシ地域の5校で実施したエイズ対策クラブの啓発能力強化を通じて、生徒が校内および近隣地域にて継続して HIV 感染予防啓発活動を実施できる能力を身につけた。</p> <p>本事業を含めた3年間の活動により、3クリニックおよびその周辺地域にて ART 支援体制を整えたことで、より多くの ART 患者が適切な服薬を継続できるようになったとともに、エイズ対策クラブの活動により地域の HIV/エイズへの理解が促進され、事業地におけるエイズの脅威の軽減に寄与した。</p>
(2) 事業内容	<p>(ア) ART センターの建設と整備</p> <p>第2期までに建設したマウントマクル、ナンゴングウェ、ムウエンベシの3カ所の ART センターにおいて、必要な環境整備を行った。具体的には、マウントマクルおよびナンゴングウェに CD4 測定器を各1台供与した。また、患者への治療継続啓発や感染予防教育のため、3センターの待合室に TV および DVD プレイヤー、女性用コンドーム装着実演模型を供与した。ナンゴングウェおよびムウエンベシには、病状が深刻で来院できない患者を搬送する自転車用救急搬送カートを各1台供与した。</p> <p>(イ) ART 患者情報管理システムの改善と確立</p> <p>第2期に引き続き、3クリニックで患者情報管理ソフトウェア (スマートケア) および患者台帳を用いた患者情報管理方法の定着を図った。マウントマクルでは服薬支援ボランティアにスマートケア操作についての研修を実施し、ボランティア自身がカウンセリング結果等の入力や患者照会ができるようになった。しかし、全国的な計画停電により、患者情報の更新が遅れることがあった。このため、患者台帳を用いた患者の予約情報管理を引き続き併行して行った。ムウエンベシにおいても、停電の影響により、患者情報の電子化が遅れが生じた。このため、引き続き紙のカルテと患者台帳を用いた来院管理を行い、予約日に来院していない患者、また長期間来院し</p>

ていない患者の一覧を作成した。

#### (ウ) 服薬支援ボランティアの育成と自立支援

服薬支援ボランティアに対し、①介助研修、②ファシリテーション技術研修、③資金調達能力強化研修、④経験共有ワークショップを実施した。

資金調達能力強化研修では、各クリニックの服薬支援ボランティアがすでに開始したキオスク等の小売業等の効果的な運営方法を学んだ。これに加え、ナンゴングウェの服薬支援ボランティアは、本事業終了後に現地 NGO として ART 患者への啓発活動を継続的に行うことを見据え、資金調達の申請書の書き方を学んだ。

3 クリニック合同で行う経験共有ワークショップは3回に分けて行い、第1回目ではクリニックでの補佐業務や家庭訪問全般における困難や課題を共有し、解決策を協議した。第2回目は、ボランティアの活動意欲の維持にはクリニック職員による監督体制づくりまで踏み込む必要ができたため、クリニック職員を対象に実施した。この中でクリニック職員が、「ART 担当カウンセラーが月に1度服薬支援ボランティアの定例会に参加する」など、具体的な役割分担を決め、服薬支援ボランティアの監督方法を明確にした。第3回目では服薬支援ボランティアが患者への服薬指導カウンセリングの際に経験した課題に焦点を当てた。患者役とカウンセリングを行うボランティア役に分かれて具体的なケーススタディをもとにロールプレイング演習を行い、伝統医療への傾倒から服薬遵守できない患者や、妊娠を希望する患者など、特に配慮が必要なケースへの対応方法を学んだ。また、12月には成果・計画発表会を実施し、3クリニックのボランティアが今年度の活動の振り返りと次年度の計画を発表した。

#### (エ) ART 患者及びその親近者に対する啓発活動実施

支援対象の3クリニックに通院するART患者とその親近者に対し、HIV/エイズの基礎知識と服薬遵守に関するワークショップを、マウントマクルで8回、ナンゴングウェで9回、ムウエンベシで13回の計30回実施した。今期では第2期までの実施経験を踏まえ、治療中の栄養摂取やアルコール過剰摂取の影響等についても盛り込み、患者が実生活で直面する服薬阻害要因にアプローチする内容とした。また、若年者は保護者のいる場で性に関わる話題を自由に議論しづらい傾向があるため、上記のうちマウントマクル2回、ナンゴングウェ1回では若年者の患者のみを対象として実施した。

さらに今期は、男性ART患者や、潜在的治療脱落者への啓発を目的とし、週末の飲食店など、多くの人が集まる場所や時間にHIV/エイズや服薬遵守に関する啓発ビデオ上映会を行った。マウントマクルで2回、ナンゴングウェで3回、ムウエンベシで2回の計7回開催した。

#### (オ) 学校エイズ対策クラブに対する予防啓発活動実施

支援対象校全5校に対し啓発劇スキル強化ワークショップを行い、第2期に支援対象校に加えたムクユ小学校に対してはファシリテーション・リーダーシップワークショップを行った。同ワークシ

	<p>ヨップでは、すでに前年同内容を受講したムウエンベシ中高等学校の生徒が一部の講義を担当した。</p> <p>11月28日には、ムクユ小学校、ムパンバ小学校、ウェストウッド小学校、マーノ小学の4校のエイズ対策クラブのメンバーが集まり、戸別訪問啓発で伝えるべき内容や効果的な啓発について意見交換を行った。これは、学校間のつながりを強めるとともに互いの技術や知識を高める機会となった。11月29日には世界エイズデーの事前イベントとして、同4校が合同でウェストウッド小学校周辺地域において、VCT (Voluntary Counselling and Testing: 自発的に受けるカウンセリングと HIV 抗体検査) についての戸別訪問啓発活動を実施した。世界エイズデー当日には、エイズ対策クラブが歌や寸劇を通して HIV/エイズに関する啓発を地域住民に対し行った。12月8日には各校のクラブ顧問教師、学校運営者、郡教育局を招いて関係者会議を開き、各校が既に策定している2016年度の活動計画をもとに、当会の事業終了後のクラブの継続的な運営の方向性を確認した。</p>
(3) 達成された成果	<p><u>(ア) ART センターの建設と整備 (第3期)</u></p> <p>3クリニックでの ART センター建設により、十分な ART 診療・カウンセリングスペースが確保され、患者のプライバシーに配慮した適切な環境下で診察が可能になった。ART 診療日は、マウントマクルでは週1日から5日、ナンゴングウェでは週3日から5日、ムウエンベシでは週2日から3日に増え、ART 患者の治療へのアクセスが向上した。なお、3クリニックに建設した ART センターおよび供与した資機材は、郡保健局の監督のもと適切な維持管理・運営が行われている。</p> <p>第3期にて供与した CD4 測定器は2クリニックにてそれぞれ週3回利用され、2015年10月から3月までにナンゴングウェで498件、2016年1月から3月までにマウントマクルで134件の検体が検査された。マウントマクルでは担当検査技師が産休中であったため CD4 測定器の使用開始が遅れたが、2016年1月から復帰しており、順調に検査が行われている。2016年1月には、複数の担当者が CD4 測定器の使用講習を受け、担当検査技師が休暇時にも問題なく CD4 測定器を使用できるようになった。以前は他 NGO が運営するルサカ市内のラボに検体を送り、検査結果の入手に数週間を要していたが、各クリニックで独自に検査が可能となったことで、患者の状態を迅速に評価できるようになった。</p> <p><u>(イ) ART 患者情報管理システムの改善と確立 (第3期)</u></p> <p>【成果指標】2016年3月末時点でマウントマクルでは1,730件、ナンゴングウェでは4,187件の患者情報がスマートケアに入力され、一時は全 ART 患者の予約・来院状況をスマートケア上で把握することが可能であった。しかし全国的な停電の影響で、患者情報を常時更新することが困難となったため、服薬支援ボランティアが従来の患者台帳を併用し、ART 患者の来院予約管理を行う体制を整えた。これにより、スマートケアから出力した患者一覧をもとに、患者の紙カルテと突き合わせ、予約日に来院していない ART 患者一覧表を</p>

作成することが可能となった。

ムウエンベシにおいても停電の影響から全患者の登録は完了していないため、患者台帳を用いて予約管理を行い、長期にわたり来院が途絶えている ART 患者の一覧表が作成され、これにもとづき家庭訪問を行う体制が構築された。

#### (ウ) 服薬支援ボランティアの育成と自立支援 (第3期)

2016年2月末の時点で、マウントマクルでは10名、ナンゴングウエでは13名、ムウエンベシでは24名の服薬支援ボランティアが患者への家庭訪問活動およびクリニックでの受付や紙カルテ出納等、ART患者の治療継続支援活動を行っている。2015年2月から12月までナンゴングウエ・クリニックにて収集したデータによると、服薬支援ボランティアによる家庭訪問後に通院を再開した長期来院停止患者は、対象期間の全訪問患者数の約86%であり、服薬支援ボランティアによる家庭訪問活動が確実に成果を上げている。

【成果①指標①】第1期から第3期の3年間を通じた家庭訪問数は3クリニックで計3,039件であり、マウントマクルで月平均23件(月間目標20件、達成率115%)、ナンゴングウエで月平均43件(月間目標39件、達成率110%)、ムウエンベシで月平均46件(月間目標50件、達成率92%)であった。3クリニック平均では105%となり、目標指標を達成した。

第3期単独では、服薬支援ボランティアがマウントマクルでは月平均17件(月間目標20件、達成率85%)、ナンゴングウエでは月平均43件(月間目標39件、達成率110%)、ムウエンベシでは45件(月間目標50件、達成率90%)のART患者への家庭訪問を実施した。マウントマクルおよびムウエンベシでは、数名の服薬支援ボランティアに活動意欲の低下が見られ、家庭訪問数の目標達成に至らなかったが、3クリニック平均では目標指標の95%を達成している。

2016年2月に開催した州保健局、郡保健局、クリニック職員、服薬支援ボランティアを招いた関係者会議では、クリニック職員が服薬支援ボランティアの活動を維持するために責任を持ち監督を行うこと、さらに郡保健局がクリニックを監督することが合意された。

【成果②指標】活動資金調達のための活動として、マウントマクルでは服薬支援ボランティアがキオスクの運営を開始した。ナンゴングウエでは第2期に引き続き、ケータリング事業、資金調達イベントおよびマイクロクレジットの運営を服薬支援ボランティアが行った。ムウエンベシでは第2期から継続しているケータリング事業に加え、賃貸事業を開始した。また、ムウエンベシのボランティアグループは組織基盤を固め、現地NGOとしての登録を完了し、当会の事業終了後も活動を継続する体制が整った。

#### (エ) ART患者およびその親近者に対する啓発活動実施 (第3期)

【成果指標①】第3期において、患者およびその親近者を対象とする服薬遵守ワークショップを計30回(マウントマクル8回、ナンゴングウエ9回、ムウエンベシ13回)実施し、計932名が参加、指標を達成した。

	<p>【成果指標②】ワークショップ実施後の知識確認テストで、受講者の約9割が60点以上を獲得し、指標を達成した。第1期から第3期までの3年間を通じ、服薬遵守ワークショップ計75回を開催し、2,501名が参加した。9割以上の調査対象受講者がワークショップ後の知識確認テストで60点以上を獲得した。</p> <p>また飲食店等での啓発ビデオ上映会を計7回行い、1,267名が参加した。総参加者数のうち810名が男性であり、平日昼間に行う通常のワークショップでは参加が難しい男性層に、HIV/エイズや服薬遵守に関する正しい知識を伝える機会となった。</p> <p><b>(オ) 学校エイズ対策クラブに対する予防啓発活動実施 (第3期)</b></p> <p>支援対象校5校においてクラブの定例会が継続して実施された。また、クラブメンバーは啓発劇スキル強化ワークショップで学んだ技術を生かし、劇や詩を交えてクラス巡回啓発活動や学校朝礼での啓発活動を行った。さらに、国家VCTデーおよび世界エイズデーといったエイズ関連記念日には学校近隣のコミュニティで戸別訪問啓発活動等を行ったほか、郡保健局や地元企業の後援を得て、ムウエンベシの服薬支援ボランティアや現地NGOと協働での啓発イベントを実施した。</p> <p>【成果指標②】上述の活動を通じ、2016年2月10日までに3,524人の学生および地域住民に啓発活動を行い、指標の1,600人を大きく上回る成果となった。</p>
(4) 持続発展性	<p>2016年2月10日に開催した関係者会議では、州保健局、郡保健局、クリニック職員、服薬支援ボランティアを招き、事業の成果と課題、事業の効果継続のために今後各関係者が行うべき取り組みにつき協議した。特に服薬支援ボランティアが行う患者の家庭訪問やクリニックでの補佐業務の継続には、クリニック職員による積極的な関与・監督や感謝の表明が不可欠であることが確認された。さらに郡保健局がクリニック職員のボランティアへの監督状況をモニタリングすることが合意された。また、当会よりクリニック職員および服薬支援ボランティアにスマートケア使用方法のトレーニングを行い、クリニック職員およびボランティアによる運用が可能となった。操作上問題が発生した際には郡保健局の情報担当官が支援し、クリニック職員とボランティアで継続的に患者情報管理を行う体制が整っている。</p> <p>当会事業により建設したARTセンターおよび供与した資機材については、郡保健局が責任を持ち維持管理することを再度確認した。クリニックは問題があった際にはすぐに郡保健局に報告すること、郡保健局は可能な限り迅速に対応をすることが、全関係者により合意された。なお、各クリニックの服薬支援ボランティアは、事業終了後の活動資金確保のための収入創出活動を継続している。特に会計管理で問題が発生することがないように、クリニック職員の監督を受けながら順調に運営している。</p> <p>2015年12月には学校エイズ対策クラブの顧問教師、学校運営者および郡教育局と関係者会議を開き、各校のクラブの活動成果や課題、今後の各校のクラブの持続性について協議した。当会の事業終</p>

了後もクラブ活動を継続するためには、外部の資金を必要としない校内での啓発活動に重点を置くことや、校外での活動実施の際は学校運営者が郡教育局に情報共有をし、必要な際には支援を要請することが合意された。なお、各校はすでに2016年度の活動計画を作成済みである。今後も当会は月に一度程度の頻度で3クリニックおよび支援対象校を訪問し、活動の実施状況をモニタリングする予定である。

以上のことから、ART患者が適切な服薬を継続できる支援体制が維持され、また同時に若年層の間でHIV/エイズ感染予防に関する知識が広まることで、対象地域におけるエイズの脅威が今後も軽減されることが期待できる。

3. 事業管理体制、その他	
(1) 特記事項	第3期事業期間中に現地通貨ザンビアクワチャの価値が大きく下落し、資金管理に影響を与えた。

完了報告書記載日：2016年5月10日

団体代表者名： 理事長 長（志邨） 有紀枝（印）



【添付書類】

- ① 事業内容、事業の成果に関する写真
- ② 日本NGO連携無償資金収支表（様式4-a）
- ③ 日本NGO連携無償資金使用明細書（様式4-b）
- ④ 外部監査報告書